

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目

日本史

総括

| | | | | | |
|--------|------------------------|----------|----|-----|----|
| 試験時間 | 120分 | 難易度(昨年比) | 難化 | 昨年並 | 易化 |
| 満点(配点) | 法・経済 160、商 125、社会 230点 | 分量(昨年比) | 増加 | 昨年並 | 減少 |

〈総論〉

- 昨年に比べ問題がさらに易化し、標準レベルの出題であった。
- Iが小問6題となったのが大きな変更点。さらに文化史の出題が増えたことは、一橋大としては新しい傾向で、文化史を軽視していた受験生は苦勞したであろう。
- 従来は、IIが近代、IIIが近代または現代の出題であったが、IIとIIIでともに戦後史を含む出題となったのは、初めてのことである。戦後史は必ず出題されると考えた方がよいだろう。

〈特記事項・トピックス〉

- 本校の一橋実戦で、農地改革に関するまったく同じ出題があった。模試や過去問の復習がいかにか大切であるか実感した受験生も多かったであろう。
- 本校の夏期・冬期講習「一橋大日本史」で、寄生地主制や松方財政に関する論述問題を扱ったため、受講生にとってはIIの解答を書くうえで参考となったはずである。

〈合格への学習対策〉

- 東大から一橋大に志望を変更した受験生は、戦後史学習の重要性を認識したであろう。
- やはり「選球眼」の良し悪しで得点差がひらく可能性があるため、解ける問題からとりかかるのが一つのコツである。

設問ごとの分析

| 問題番号 | 出題形式 | 分野・テーマ(表題) | 特徴(内容分析・解答上のポイント) | 問題レベル |
|------|------------|--|--|-------|
| I | 論述 400字 | 西川如見の著作をつかった中・近世の文化と社会 問1 初期の茶の湯で流行した一方式 問2 侘茶を創始した人物とその内容 問3 秀吉の開いた茶会名と代表的な茶人 問4 『平家物語』の内容とその広がり 問5 『太平記』が書かれた時代の社会の変容 問6 西川如見の生きていた時代の社会 | 前半が用語解説的な内容に対し、問5・問6がどこにポイントを絞って書けばよいのか迷ったはずである。特に西川如見のいう「今の時世」とは、あまりにも漠然としすぎていて、何を書いてもよさそうな気さえする。史料がいかされた出題とはいえないだろう。 | 標準 |
| II | 論述 400字 | 寄生地主制 問1 農地改革の内容とその結果 問2 地租改正から松方財政までにおける寄生地主制の形成過程 問3 明治憲法下における地方名望家の政治参加を保障する制度 問4 1920年代の小作争議が掲げた要求と全国組織 | 問1・問2は一橋大志望者であれば必ず書けなければならない問題。一方、問3は過去問にはあるが、町村制に言及するのは難しいか。なお、問4は「耕作権の保証」と書いてもよい。 | 標準 |
| III | 論述 400字 | 戦前期日本の陸海軍と戦後の非軍事化 問1 統帥権の独立 問2 統帥権干犯問題の経緯 問3 敗戦後の直接的な非軍事化政策 | 問1は一橋大定番の問題。問2はメジャーな問題で、確実に得点したい。なお、問3は「二つあげ」とあったので省略したが、公職追放について書いてもよい。 | 標準 |

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

出典・資料 ※該当する場合記入

『町人囊』『百姓囊』西川如見